

報道発表



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



令和2年9月9日

コロナ禍の高校生が世界と繋がる学びを発信するプロジェクト

いつもの場所から越境体験 **#せかい部 X SDGs 探究**

全国の高校生レポーター100名、先生レポーター5名を公募 9/9(水)~28(月)

官民・国内外で活躍する多彩なナビゲーターによる全28講座を用意。

ベストレポーターに選出されると人気のkemioさんに学びの成果を話す権利も！

文部科学省が官民協働で取り組む留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」（以下、トビタテ）は、高校生が SDGs に関する 5 つのテーマの探究学習をすることで得られる気づきや学びを発信するプロジェクト「#せかい部 × SDGs 探究」を開始します。

本日より 9 月 28 日（月）まで、全国 47 都道府県から高校生レポーター 100 名と先生レポーター 5 名を公募、選抜されると、国内外で活躍する各分野の有識者とオンラインで繋がり、講義の聴講や質疑、関連施設のバーチャル見学などを通じて、身近な社会課題をグローバルな視点で探究します。

このプロジェクトは、コロナ禍で人の移動が制限される状況下でも、高校生が世界に関心を寄せ、いつか飛び立ち、海外で学ぶ目的意識を育むきっかけになることを期待し、留学啓発事業の一環として行うものです。高校生向けの意識調査の結果（※別添資料参照）、留学に対する関心の高い人は、社会課題への関心や SDGs に対する関心も高いことがうかがえることから着想しました。ベストレポーターには、若い世代に人気の kemioさんにイベントで学びの成果を話す権利を提供し、まだ社会課題に関心を持っていない層への情報拡散も図ります。

【企画の概要】

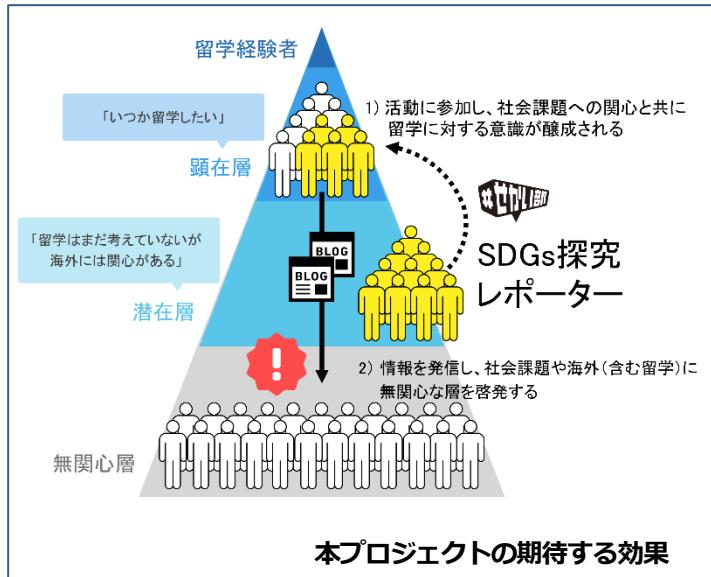
1. 全都道府県からエントリーする 100 名の高校生が 5 つのテーマをグローバルな視点からオンラインで学習し、そこで得た気づきや学びを、トビタテの特設ブログサイト（note）や自身の SNS にハッシュタグ「#せかい部 sdgs」をつけてレポーターとして発信。5 名の教員は本プログラムに準じる独自の講座を期間中に 1 回主宰。
2. 5 つのテーマとは、SDGs の諸課題から、貧困の解消、ジェンダー平等の実現、住み続けられるまちづくり、気候変動への対応、生物多様性の保全。高校生にとって「自分ごと化」しやすいものを抽出した。
3. 各テーマにつき 5 本程度の学習機会を用意。内容は、各社会課題に関する概論、日本の現状認識、海外の課題解決に資する先進事例やユニークな取り組みの紹介、一線で活動する方へのインタビュー、関連施設のバーチャル見学など。
4. 高校生が国内の状況を知り、海外事例を知る「バーチャル越境体験」をし、解決策を探求したい意欲を醸成、将来、実際に海外の現場で学びたくなる気持ちが創出されることを期待。
5. 参加費は無料。

【高校生レポーターについて】

応募資格：

高校生（※1）であること

（※1）2020年10月1日時点に、
日本の高等学校、中等教育学校後期課程、
特別支援学校高等部、高等専門学校（1～3年次）
専修学校高等課程に在籍する日本国籍 または
日本の永住権を持つ生徒



その他、応募時に必要な要件は、

- ① トビタテの「#せかい部」のSNSアカウントをフォローし、本企画に参加を通じて得た学びや気づきを発信できるSNSアカウントを所持していること
 - ② 名前、学校名、顔写真の掲載を含むSNSでの積極的な発信ができること
 - ③ キックオフガイダンス＆交流会に出席できること
 - ④ 最終レポートの提出ができること
 - ⑤ イベントや取材協力に応じられること
 - ⑥ レポーターへの応募について保護者と在籍校の許諾を得られること

※海外経験や語学力は特に問わない。

【先生レポーターについて】

全国の高等学校（含む中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校、専修学校高等課程）の教員が対象。授業または放課後の課外活動の一環として、本企画の探究学習プログラムを活用したい教員が応募する。具体的な学習内容については、応募時に教員が選択するテーマに応じて、参加決定後に、トビタテ事務局と相談の上で決定。各校での講座は1回を想定している。

【応募方法】

トビタテ公式サイト内「#せかい部 × SDGs 探究」レポーター募集の特設ページから応募。

受付期間は9月9日（水）から9月28日（月）まで。

<https://tobitate.mext.go.jp/sekaibu-SDGs/>

【レポーターの決定と通知】

トビタテ事務局にて、探究テーマの希望、居住地域等のバランス等を鑑み、応募者の中から高校生100名 および先生5名を「#せかい部×SDGs 探究レポーター」として採用し、10月4日（日）までに通知予定。

【スケジュール（予定）】

9月 9日（水） SDGs 探究 チャレンジレポーター募集・Web ページ公開
9月 28日（月） 参加者募集〆切 および選考
10月 10日（土） 14:00~16:00 キックオフガイダンス＆交流会 探究学習とレポート発信開始
10月～11月下旬の平日夜または週末 各プログラムの実施
11月末 探究活動の最終まとめレポート提出
12月中旬 テーマごとに、ベストレポーターを選出・表彰
1月中/下旬 成果報告会（ニューヨークと繋ぐオンライン開催）
ベストレポーター5名がトビタテの公式サポーター kemio（※2）さんに
学びの成果をシェアする予定。

（※2）2020年9月現在、SNS フォロワー数の総計 400万人以上の若者に絶大な人気を誇るクリエーター。
GQ MEN OF THE YEAR 2019で Youth Influencer of the Year を受賞。ニューヨーク在住。
2020年よりトビタテの公式サポーターも務めている。

【各プログラムの登壇者】（予定、敬称略、順不同） ※全プログラムオンライン開催

① キックオフガイダンス＆交流会

佐藤 桃子：国連広報センター
萩原 なつ子：立教大学社会学部／大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授
特定非営利活動法人日本NPOセンター 代表理事

② 貧困をなくそう

平田 菜摘：前内閣府子どもの貧困対策担当 参事官補佐（現 厚生労働省障害保健福祉部企画課課長補佐）
中塚 久美子：朝日新聞阪神支局 専門記者（子ども・貧困）
木村 駿：特定非営利法人 Learning for All 子ども支援事業部現場統括
渡辺 由美子：特定非営利法人キッズドア 理事長
アレックス・ベンカート：特定非営利法人キッズドア
笹瀬 正樹：（一社）キリマンジャロの会 さくら女子中学校 タンザニア駐在員
原 あかり：フィンランドセンター アカデミック・リサーチ・コーディネーター

③ ジェンダー平等を実現しよう

野田 聖子：衆議院議員
吉田 真晃：内閣府 男女共同参画局 暴力対策推進室長
佐野 敦子：国立女性教育会館 情報課専門職員（併）研究国際室専門職員
中村 敏久：UN Woman（国連女性機関）日本事務所 パートナーシップ・資金調達専門官
北岡 美佐子：ニュージーランド大使館 エデュケーション・ニュージーランド駐日代表

④ 住み続けられるまちづくり

鈴木 宏和：前内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 参事官補佐（現（株）国際協力銀行ロンドン駐在員）
片岡 修平：前内閣官房 日本経済再生総合事務局 参事官補佐（現 在英国日本国大使館一等書記官）
西芝 雅美：ポートランド州立大学ハットフィールド大学院 行政学部長・教授
大和田 順子：（一社）ロバス・ビジネス・アライアンス 共同代表
内藤 直樹：徳島大学総合科学部 准教授・文化人類学者
和田 寛：白馬観光開発株式会社 代表取締役社長

⑤ 気候変動に対策を

環境省

長谷川 洋：経済産業省資源エネルギー庁 長官官房総務課 需給政策室長兼調査広報室長

渡辺 佑基：国立極地研究所 生物圏研究グループ 准教授

太田 義孝：ワシントン大学 環境海洋学部 助教授

城口 洋平：ENECHANGE 株式会社 代表取締役 CEO、SMAP Ltd. CEO

木村 健：株式会社ユーブレナ 経営戦略部 部長代理

⑥ 生物多様性を守ろう

環境省

藤倉 克則 (ほか)：国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)

内藤 健：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 遺伝資源センター 主任研究員

楠部 真也：特定非営利法人ピッキオ 代表

宮本 育昌：国連生物多様性の10年市民ネットワーク 事務局長

※各プログラムの実施は 10月10日(土)～11月下旬の平日 17:00 以降または週末になる予定です。

メディアのみなさまも、ご聴講可能です。（事前申込制）



トビタテ！留学 JAPAN とは・・<https://tobitate.mext.go.jp/>

文部科学省初の官民協働留学促進キャンペーン。2020年までに、海外留学する高校生、大学生を倍増する目標を掲げてスタート。主な取り組みである「日本代表プログラム」は、100%民間の寄附を財源とし、民間企業約240社から117億円以上の寄附を受け返済不要の奨学金でサポートする留学支援制度です。留学期間やテーマ、プランを自由に設定できること、インターンシップなど座学だけではない多様な留学を支援するのが特徴で、個性豊かなグローバル人材の育成を目指します。トビタテ奨学生は既に約8,000名以上を選抜し、約100か国に留学しています。

「#せかい部」とは <https://tobitate.mext.go.jp/sekaibu/>

普段の生活ではなかなか知ることのできない世界と触れ合う、高校生による高校生のための「ソーシャル部活動」です。

以上

〈本件に関する報道関係者お問合せ先〉

文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクト「トビタテ！留学 JAPAN」広報担当：桜木 由美子

電話：050-5468-1865 (携帯) 03-5253-4111 (代表) 03-6734-3624 (直通)

FAX：03-6734-4936 E-mail: yumi-sakuragi@mext.go.jp

【添付資料】「トビタテ！留学 JAPAN」（以下トビタテ）が実施した意識調査について

〔調査の背景〕

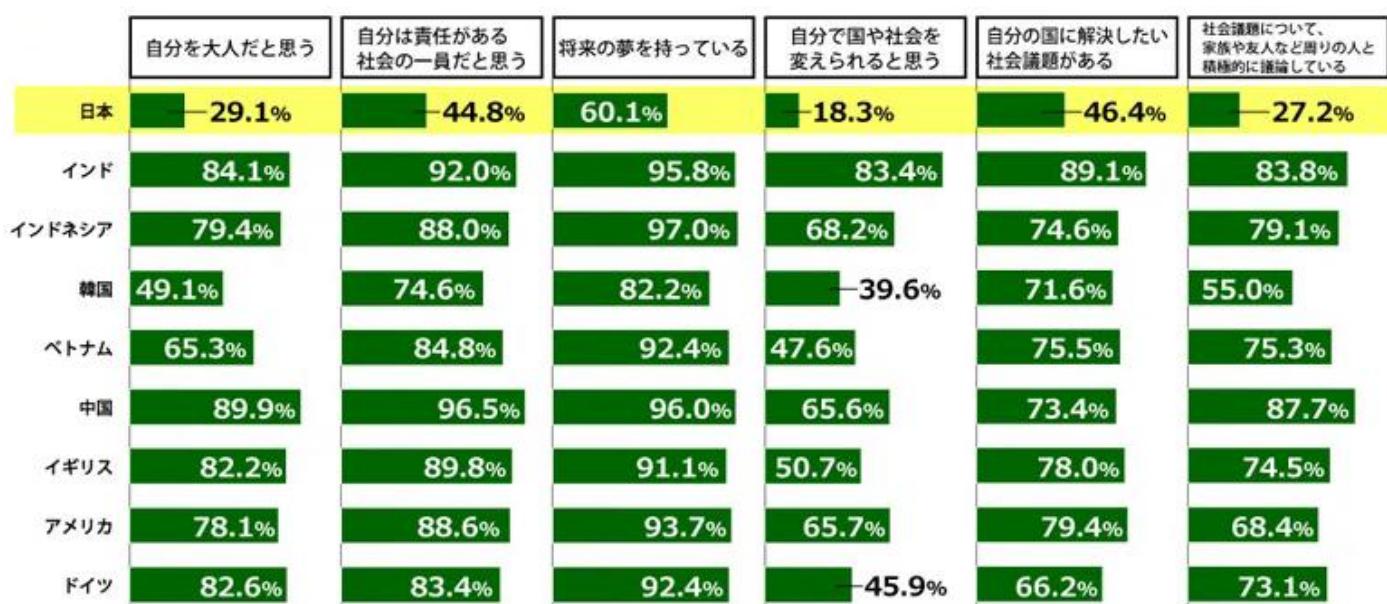
トビタテは、主な取り組みとして2014年から運営している「日本代表プログラム」の応募者の多くが、留学体験を希望する理由に、社会課題への高い関心が読み取れる事柄を挙げているケースが圧倒的に多く、「社会課題に対する関心の高い人は、留学に対する意欲が高い傾向にあります」という実感がありました。

一方、2019年秋に日本財団が実施した「18歳意識調査」では、日本の若者の「国や社会に対する意識」は世界の同世代と大きく乖離し、「自分で国や社会を変えられると思う」日本の若者は5人に1人（18.3%）、「自分の国に解決したい社会課題がある」人も、他国に比べて30%前後も低い結果が示されました。（図1）

出典：日本財団「18歳意識調査 第20回テーマ：「国や社会に対する意識」
(9か国・各国1,000人、2019年9月27日～10月10日調査)

（図1）

「はい」と回答した人のグラフ

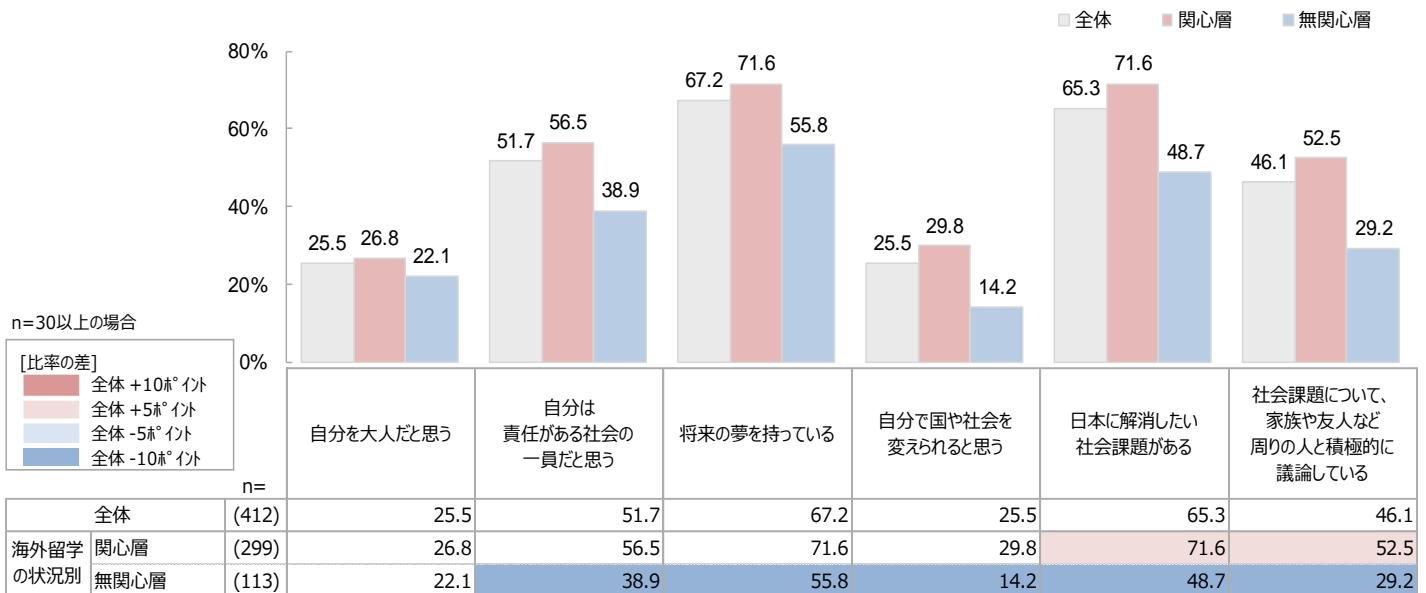


トビタテは、この結果に日本の未来に対する危機感を感じ、社会課題への関心喚起の必要性を感じると共に、その関心が留学への関心に繋がるのであれば、トビタテのミッションのひとつである留学機運の醸成を図る上でも好循環ではないかという考えに至りました。

そこで、前述の社会課題への関心と留学に対する関心の相関関係を確認するために、2020年3月、全国の高校生を対象にオンライン調査を実施。日本財団の上記調査と同じ項目、さらにSDGsに関する項目など社会課題に関するキーワードの認知や関心の有無を質問し、留学に対する関心の有無とのクロス分析を行ったところ、すべての項目について、留学に対する関心層は無関心層よりも「はい」と回答する割合が高く、日本財団の調査で示された各国の若者に近い意識を持っている結果が得られています。（図2）

(図2) 「若者の社会課題への関心と留学に対する関心との関係」
トビタテ留学 JAPAN 調べ 2020年3月

※スコアは「はい」と回答した割合を掲載

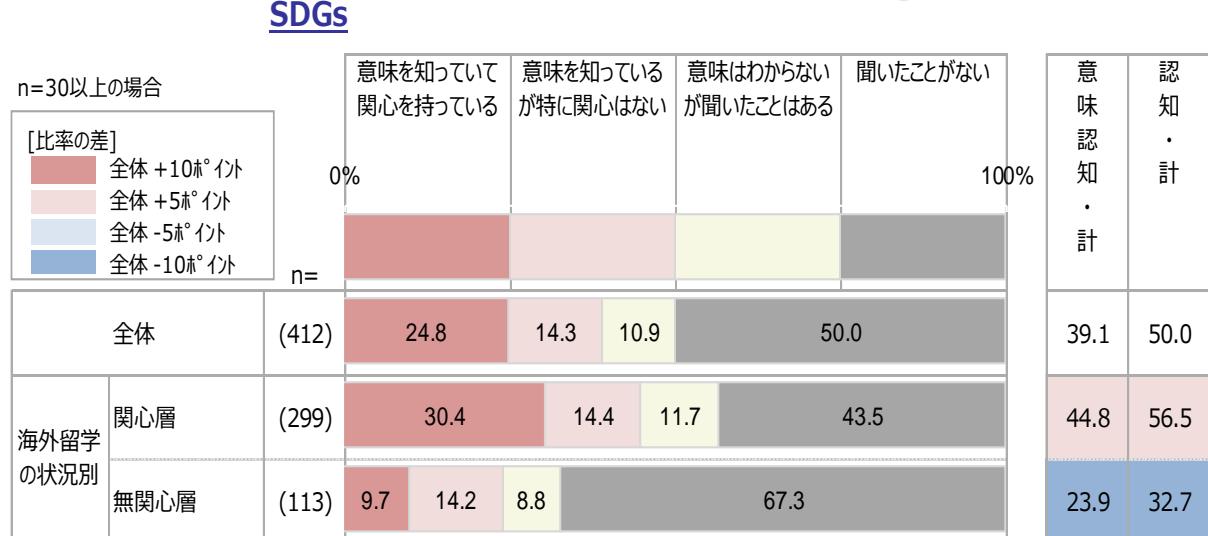


さらに、SDGsに対する関心も、留学に対する関心層は無関心層よりも高いことが判りました。

(図3)

(図3)

※スコアは「はい」と回答した割合を掲載



意味認知・計 = 「意味を知っていて関心を持っている」 + 「意味を知っているが特に関心はない」
認知・計 = 意味認知・計 + 「意味はわからないが聞いたことはある」